



長野県立総合

第4号 平成28年1月発行

リハビリテーションセンターだより

目次

センターからの情報発信	1
リハビリテーションセンター祭 開催!	2・3
「医薬品の適正使用」の推進のために	4
コミュニケーション支援についてのお知らせ	4

発行:長野県立総合リハビリテーションセンター
 編集:広報紙委員会
 住所:長野市下駒沢618-1
 TEL:026-296-3953
 FAX:026-296-3943
<http://www.pref.nagano.lg.jp/rehabili/index.html>

センターからの情報発信

次長兼管理部長 黒柳 利平

当センターは、平成18年に名称が身体障害者リハビリテーションセンターから総合リハビリテーションセンターに変わりましたが、身体障がい者の福祉増進と社会参加の促進を第一の目的に、病院(外来・手術・入院80床)、身体障がい者支援施設(利用定員80人)、補装具、更生相談室の4部門からなる複合施設として、一貫したリハビリテーションサービスを提供する施設であることに変わりありません。

私が着任して早や3年ですが、当センターのことを患者や利用者の皆さんにもっと知ってもらおうことが大事だと感じています。センターの取り組みやセンターをめぐる動きをご紹介します。

1 リハビリテーションセンター祭

ホップ・ステップ・ジャンプと勢いをつけてセンター開設40周年を迎えようと、平成24年にセンター祭が始まりました。41年目の昨年秋も、コンパクトな形で第4回を開催し、バイオリン演奏会や各種体験企画など、大勢の方にご参加いただきました。今年もどうぞお楽しみに。

2 経営推進プラン

経営やサービスの改善に向けた具体的な取組と数値目標を定めた3年間のプランです。H27年度から第3次プランの計画期間になっていますが、今は「暫定版」で進行管理しており、「あり方検討会」の結論を待って確定版を策定する予定です。プランの内容及び毎年度の実績は、当センターのホームページに掲載しています。昨年度は、外来患者数、入院患者数、手術件数などが目標を大きく上回り、大変良好でした。

【ここ数年の新たな取組】

職員倫理要綱の制定/下駒沢区との災害時相互応援協定締結/利用者満足度調査結果の掲示(再開)/ご意見箱への回答の掲示(再開)/センター全体での接遇研修会/院内講演会(再開)/センターPR用DVD作成/センターだよりの創刊/建物内・病院敷地内の全面禁煙/64列エックス線CTの導入/髄腔内バクロフェン療法/同種骨移植による人工関節置換術/余暇時間利用のレクリエーション活動(1階病棟)/糖尿病患者のフットケア/全ての車椅子への転倒防止バー取付け/作業療法作品の常設展示/障害者総合支援法の相談支援事業/施設部門PRのための県内医療機関等訪問/施設部門のCD・リーフレット作成/自動車運転訓練への軽自動車導入/施設棟食堂の温冷配膳車/給食調理業務の委託 など

3 センターのあり方検討

長野県行政・財政改革方針(平成24年)で、当センターも指定管理や地方独立行政法人化を検討する対象施設となり、平成25年度には当センターを対象に包括外部監査が実施されました。この監査では、「県直営だからこそ相談、医療、福祉と切れ目のないリハビリテーション(県民サービス)が円滑に提供できている」という評価とともに、「運営形態のあり方についての議論ありきではなく、まず、県は『あり方検討会』を設置して、センターが果たすべき役割やビジョン等を明確にすべき」との結果が出ました。

平成26年度に「あり方検討会」が設置され検討が進んでいます。運営形態については、新年度から県で検討が行われる見込みです。今後も、県の財政面からだけではなく、利用者のことを考えた検討(地方公営企業化・県直営-を含む)が行われるよう、多くの方に関心をもっていただきたいと思います。

平成27年度 リハビリテーションセンター祭 開催！

平成27年10月24日にリハビリテーションセンター祭が開催されました。
今年度は、テーマを「来て みて 体感！リハビリセンター」と定め、医療や障害について理解を深めていただけるよう、リハビリセンターならではの体験型の企画を多数行ないました。
ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。



【牧 美花さんのバイオリン演奏】

左手に障害を持ちながら、工夫と努力でハンディキャップを乗り越え、演奏家として活躍している牧さん。

牧さんの人柄と感動的な演奏に会場内から大きな拍手が巻き起こっていました。



【そば打ち実演、新そば振る舞い】

恒例となったそば打ち実演と新そばの振る舞い。

そば打ちの実演会場では、多数の来場者にそば打ちを間近でご覧いただきました。

打ち立ての新そばの味は今年も格別でした。



【改造車教習の体験】

当センターを利用された方から平成27年5月に寄付していただいた軽の改造教習車と普通改造車を駐車場で展示しました。

実際に運転席に座り、左アクセルや手動装置を体験していただきました。



【コージノー わくわくサロン】

「高次脳機能障害家族・家族の集い」に参加する家族が中心になり、お茶飲みサロンを開きました。

皆で話したり、頭を使うゲームなどをして楽しみました。

ポップコーンの配布も好評でした。



【ほっと一息コーナー】

気分チェックでは、多くの方に様々なストレス解消法等を書いていただきました。

コーヒー等も好評で、ひとときの憩いの場として利用していただきました。



【渋温泉 足湯】

渋温泉から朝汲みたてのお湯を出前していただきました。

来場者、患者さんと職員も一緒にほのぼのとした時間を過ごすことができました。

併せて行ったスライム作りも好評でした。



【君も外科医だ】

本物の手術衣を着て、実際に使用する医療機器での手術のデモンストレーションを体験。

たくさん子どもたちが外科医に変身して実際の医療に触れていました。



【視覚障がい者体験コーナー】

視覚障がい者の世界を少しでも体験してもらい、見えない大変さを知っていただくとともに、視覚障がい者への理解を深めていただく良い機会になりました。



【高齢者モデル体験コーナー】

多くの方に体験していただき、高齢者の抱える悩みや苦勞について理解を深めていただきました。

体験された方の中には、他者の立場になり物事を考えるきっかけになったと語ってくださった方もいらっしゃいました。



【アルクマ】

県PRキャラクターのアルクマがセンター内を案内してくれました。

「医薬品の適正使用」の推進のために

薬剤検査科 薬局 近藤 弘利・鶴田 祐子

総合リハビリテーションセンター正面玄関を進むと左側に待合室があり、その奥に薬局があります。薬局では、2名の薬剤師が、下記の薬剤業務を行っています。

調剤

処方せんの内容（薬の名前、薬の量、服用方法、使用方法）を確認し、疑わしい点があれば、医師に照会しています。また、患者さんによっては、お薬を一回分ずつパックにして飲み忘れがないよう工夫しています。そして、正しく調剤されているかを、別の薬剤師が検査をすることにより、正確な調剤に努めています。

服薬指導

患者さんに薬を適正に服用していただけるよう常に心がけています。医薬品情報提供書等に基づき、薬の正しい飲み方や使い方、副作用などを説明します。また、月に1回飲む骨粗鬆症のお薬などは、適正に飲まれているか台帳により確認をしています。

持参薬確認（鑑別）業務

お薬手帳、お薬説明書などをもとに持参薬（入院時）の名前や量、飲み方・使い方を確認します。手術前の休薬する医薬品を確認したり、持参薬を当院で採用していない場合の代替薬を提案するなどして、薬物療法の向上に努めています。

薬品管理業務

麻薬や向精神薬、覚せい剤原料、毒薬等の法律により厳重な取扱いが必要な薬については、専用の金庫で保管をしたり、日々の受払いについて管理を行っています。特定生物由来製剤については、副作用や感染症といった保健衛生上の危害発生や拡大防止の措置として、投与した薬のロット番号等の記録を20年間保管管理しています。

院内製剤調整業務

患者さんの治療ニーズに応え、市販されていない院内特殊製剤（軟膏、消毒薬等）の調整を行っています。

お薬のことについて、わからないことやお困りのことがございましたら、お気軽に薬剤師に相談してください。

☆☆☆ コミュニケーション支援についてのお知らせ ☆☆☆

当センターでは、神経疾患や脳卒中、頸髄損傷などで四肢の運動障害に加えて気管切開を受けるなどして会話も筆談もできずお困りの方に対するコミュニケーション技術支援を行っています。

在宅療養中で病院に受診できない方に対しては、当センターの医師やリハビリテーションスタッフがご自宅を訪問し、どのようなコミュニケーションを希望しておられるのか、身体状況はどうかを把握し、適切な機器の選択や利用方法の助言などを行います。

サービス利用をご希望の方は、当センターの更生相談室にご連絡ください。

なお、長野県では、平成27年度から神経難病患者に対するコミュニケーション機器の貸し出し事業が始まりました。お問い合わせは、長野県難病・相談支援センター（Tel.0263-34-6587）にお願いいたします。



◎当センターでは、障害者支援施設部門のニュースレター「リハビリ通信」も年2回発行しています。（最近の「リハビリ通信」は、当センターホームページに掲載していますのでご覧ください。）